

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月3日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 ジー・モード

コード番号 2333 URL <http://www.G-mode.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮路 武

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 善村 賢治

TEL 03-5456-3780

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	3,709	0.7	△145	—	△162	—	△171	—
22年3月期第3四半期	3,683	7.4	△47	—	△28	—	△27	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	△1,516.06	—
22年3月期第3四半期	△241.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	4,380	3,812	86.9	33,623.01
22年3月期	4,643	4,044	87.0	35,675.15

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 3,805百万円 22年3月期 4,037百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	500.00	500.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,431	9.9	4	△90.2	20	△68.1	13	△92.0	114.86

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P4「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 113,183株 22年3月期 113,183株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 一株 22年3月期 一株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 113,183株 22年3月期3Q 113,183株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付書類】P.3「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(第3四半期連結会計期間)	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①業績の概況

当第3四半期連結会計期間における国内携帯電話市場は、従来型携帯端末の販売台数が依然として前年を下回って推移する中、根強い人気のiPhoneに加え、これまで一般の携帯電話端末が備えていた「おサイフケータイ」や「ワンセグ」などの機能を搭載したAndroid端末が携帯電話キャリア各社から相次いで投入されたことで、2010年12月度の携帯電話全販売台数に占めるスマートフォンの割合は凡そ5割に達し、前月に対する増加数でも昨年4月の10.2ポイントを上回り過去最高を記録(出所:BCNランキング)するなど、市場構造の二極化は急激に加速しております。

一方、モバイルコンテンツ市場におきましては、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(以下、「SNS」という。)上のアプリ内で販売されるアイテムやアバター等による2010年度の売上が前年の4倍を越える成長(株式会社シード・プランニング調べ)を遂げたことに加え、スマートフォンの浸透や国内携帯端末メーカーのタブレット型端末市場への参入などにより、携帯電話向け電子書籍の分野が活性化するなど、エンターテインメント系のコンテンツやサービスを中心に市場規模が拡大しております。また、大手SNSがスマートフォンへの対応を本格化する中、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(以下、「NTTドコモ」という。)がiモード向けに、アプリケーションやコンテンツを販売するオープンプラットフォーム「ドコモマーケット(iモード)」を開設し、従来型携帯端末によるコンテンツ市場の大きさとスマートフォンが持つアプリの自由度の高さを融合した新たなサービスを提供することで市場に活性化を促す動きも見られました。

このような経営環境の下、当社企業グループはモバイルコンテンツ事業本部における安定的収益の確保と利益率の改善に向けて、引き続き、追加課金型コンテンツの積極投入、集客力の強化やユーザー導線の拡張、退会率の抑止等に取り組むとともに、この12月には公式サイト以外で初となるSNS上での「テトリス®」配信に着手いたしました。

一方、新規事業本部におきましては、ソーシャルアプリの認知度向上と新規ユーザーの獲得に向けて、新たにGREEへの配信を開始するとともに、各種人気コンテンツとのコラボレーションを積極的に展開いたしました。また、一般サイトにおいては不採算サイトの閉鎖やサイト運用効率の見直しを行うなど、引き続き事業推進体制の強化に注力いたしました。

なお、当社企業グループにおけるセグメントの概況は以下のとおりであります。

(a) 公式コンテンツ配信事業

当社企業グループの主力である公式コンテンツ配信事業におきましては、総合ゲームサイト全体の売上高は「テトリス&Getプチアプリ」で展開する「TETRIS DJ」や「空気読み。」が好調を維持していることに加え、新たに投入した「脱出ゲームRooooM2」や、農業シミュレーションゲーム「ワンダーファームリゾート ぼくと妖精のしま」等の追加課金型コンテンツやネットワークに対応した「空気読み。2」などが堅調に推移いたしました。一方、専門ゲームサイトでは、競走馬育成シミュレーションゲーム「俺の馬」、「R.P.G-mode」では人気RPGの最新作「フライハイトフロンティア」の個別課金などが売上高の拡大に寄与いたしました。なお、2008年12月に「対戦ぐるじゃむ」でサービスを開始した携帯電話向けリアルタイム対戦テトリス「TETRIS LEAGUE(テトリス リーグ)」はサービス開始から2年足らずで2億対戦を突破するなど、多くのお客様から引き続き高い支持を得ております。

この結果、本セグメントの売上高は1,115百万円となりました。

(b) オープンソーシャル事業

オープンソーシャル事業におきましては、GREEへアプリの配信を新たに開始するとともに、「薄桜鬼」や「学園ヘタリア」などの人気コンテンツとのコラボレーションを積極的に展開し、SNSユーザーへのサービスの認知度向上に努めました。さらに、この12月からモバゲータウンとGREEで、SNS版「TETRIS LEAGUE(テトリス リーグ)」の配信を開始いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は広告収入を含め、153百万円となりました。

(c) 一般サイト事業

一般サイト事業におきましては、基本料金無料のゲームサイト「わいわいサービス」において、人気アニメ「ヘタリア Axis Powers」を原作としたコミュニティゲーム「学園ヘタリアMobile」のサービスを開始し、収益力の強化を図る一方、不採算サイトを閉鎖することで業務の集約化とサイト運用効率の向上に努めました。

この結果、本セグメントの売上高は16百万円となりました。

(d) その他

当社企業グループが所有するゲームライセンスの許諾やコンテンツ開発受託、オープンプラットフォーム向けコンテンツ配信、共同海外事業などからなる本セグメントにおきましては、「空気読み。DS」や「マジカルファンタジスタ」等のニンテンドーDSiウェア™向けコンテンツサービスの売上が堅調に推移いたしました。また、この12月にNTTドコモが提供を開始した「ドコモマーケット (iモード)」において「空気読み。」など3タイトルの配信を開始いたしました。

なお、共同海外事業におきましては、昨年11月にインド向けシャープ携帯端末1機種にプリインストールゲーム3タイトルの提供を開始いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は28百万円となりました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は、1,313百万円(前年同期比3.6%増)となりました。損益面におきましては、売上原価873百万円、販売費及び一般管理費513百万円を計上したことにより、営業損失72百万円(前年同期実績69百万円の営業損失)、経常損失77百万円(前年同期実績64百万円の経常損失)、四半期純損失は77百万円(前年同期実績65百万円の四半期純損失)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る連結経営成績に関する定性的情報については、平成23年3月期第1四半期決算短信(平成22年8月5日開示)及び平成23年3月期第2四半期決算短信(平成22年11月4日開示)をご参照ください。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末より262百万円減少(前期末比5.6%減)し、4,380百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より247百万円減少(前期末比5.7%減)し、4,058百万円となりました。主な要因は現金及び預金の増加261百万円、1年内回収予定の長期貸付金の減少477百万円であります。固定資産は、前連結会計年度末より15百万円減少(前期末比4.5%減)し、322百万円となりました。主な要因は有形固定資産及び無形固定資産の減価償却による減少9百万円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末より30百万円減少(前期末比5.1%減)し、568百万円となりました。主な要因は支払手形及び買掛金の減少25百万円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より231百万円減少(前期末比5.7%減)し、3,812百万円となりました。主な要因は剰余金の配当及び四半期純損失の計上による利益剰余金の減少228百万円です。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期の業績予想につきましては、平成22年5月7日の公表値から変更ありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

一部簡便な会計処理を適用しておりますが、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・ 会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失は1,702千円、税金等調整前四半期純損失は3,959千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,480,060	2,218,250
受取手形及び売掛金	1,297,676	1,272,919
商品及び製品	747	82
仕掛品	113,643	194,207
原材料及び貯蔵品	—	31
未収還付法人税等	382	1,134
繰延税金資産	5,792	4,284
1年内回収予定の長期貸付金	—	477,000
その他	173,715	151,268
貸倒引当金	△13,989	△14,137
流動資産合計	4,058,029	4,305,040
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	66,493	74,209
工具、器具及び備品(純額)	24,294	18,506
有形固定資産合計	90,788	92,715
無形固定資産		
のれん	49,549	57,373
その他	20,584	27,376
無形固定資産合計	70,133	84,749
投資その他の資産		
投資有価証券	37,525	31,839
繰延税金資産	2,283	2,485
その他	122,134	126,331
投資その他の資産合計	161,942	160,656
固定資産合計	322,865	338,121
資産合計	4,380,894	4,643,162

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	235,612	260,882
未払法人税等	7,593	11,424
賞与引当金	5,400	—
繰延税金負債	—	1,512
その他	320,208	325,322
流動負債合計	568,814	599,141
負債合計	568,814	599,141
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,320,723	3,320,723
資本剰余金	551,066	551,066
利益剰余金	△62,046	166,137
株主資本合計	3,809,743	4,037,927
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△4,190	△2,312
繰延ヘッジ損益	—	2,205
評価・換算差額等合計	△4,190	△106
少数株主持分	6,526	6,200
純資産合計	3,812,079	4,044,020
負債純資産合計	4,380,894	4,643,162

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	3,683,977	3,709,477
売上原価	2,262,889	2,358,417
売上総利益	1,421,087	1,351,059
販売費及び一般管理費	1,468,288	1,496,556
営業損失(△)	△47,200	△145,497
営業外収益		
受取利息	16,841	13,282
その他	3,153	1,736
営業外収益合計	19,995	15,018
営業外費用		
為替差損	868	28,039
投資事業組合運用損	844	—
その他	—	3,558
営業外費用合計	1,712	31,597
経常損失(△)	△28,918	△162,076
特別利益		
関係会社株式売却益	8,189	—
特別利益合計	8,189	—
特別損失		
固定資産除却損	82	40
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2,256
特別損失合計	82	2,296
税金等調整前四半期純損失(△)	△20,810	△164,373
法人税、住民税及び事業税	11,752	8,198
法人税等調整額	△5,511	△1,305
法人税等合計	6,240	6,892
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△171,266
少数株主利益	273	326
四半期純損失(△)	△27,325	△171,592

(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	1,267,784	1,313,603
売上原価	852,768	873,533
売上総利益	415,016	440,070
販売費及び一般管理費	484,527	513,010
営業損失(△)	△69,510	△72,940
営業外収益		
受取利息	5,350	3,250
営業外収益合計	5,350	3,250
営業外費用		
為替差損	25	5,905
投資事業組合運用損	—	2,207
その他	15	52
営業外費用合計	40	8,165
経常損失(△)	△64,201	△77,855
税金等調整前四半期純損失(△)	△64,201	△77,855
法人税、住民税及び事業税	5,469	1,209
法人税等調整額	△4,269	△1,710
法人税等合計	1,199	△500
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△77,355
少数株主利益又は少数株主損失(△)	33	△57
四半期純損失(△)	△65,434	△77,297

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	国内コンテンツ配信事業 (千円)	カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	海外事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,180,217	20,644	23,651	43,271	1,267,784	—	1,267,784
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	140	140	(140)	—
計	1,180,217	20,644	23,651	43,411	1,267,924	(140)	1,267,784
営業利益又は営業損失(△)	326,017	△216,691	4,925	△17,865	96,386	(165,897)	△69,510

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	国内コンテンツ配信事業 (千円)	カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	海外事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	3,494,438	31,871	46,879	110,788	3,683,977	—	3,683,977
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	980	980	(980)	—
計	3,494,438	31,871	46,879	111,768	3,684,957	(980)	3,683,977
営業利益又は営業損失(△)	886,091	△379,227	△6,558	△23,704	476,600	(△523,801)	△47,200

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、サービスの系列性、市場の類似性等を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
国内コンテンツ配信事業	携帯電話向けゲームコンテンツ及び着メロの企画・開発・運営
カジュアルコミュニケーション事業	携帯電話一般サイトや各種メディアデバイス等を利用したインターネットカジュアルコミュニティサービスの企画・開発・運営
海外事業	携帯電話向けゲームコンテンツの配信及びライセンス供与等
その他の事業	携帯電話向けゲームコンテンツ、動画配信ツール及び着メロ制作ツールのライセンス供与等

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）及び前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）及び前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、ビジネスモデルを基礎としてセグメントを構成し、「公式コンテンツ配信事業」、「オープンソーシャル事業」及び「一般サイト事業」の3つを報告セグメントとしております。

「公式コンテンツ配信事業」は、国内通信キャリア公式サービスにおける自社モバイルサイトの企画・開発・運営等を実施しております。「オープンソーシャル事業」は、他社運営SNS向けモバイルコンテンツの企画・開発等を実施しております。「一般サイト事業」は、国内通信キャリア非公式サービスにおける自社モバイルサイトの企画・開発・運営等を実施しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	公式コンテンツ配信事業	オープンソーシャル事業	一般サイト事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,350,606	222,135	36,957	3,609,698	99,778	3,709,477
セグメント間の内部売上高又は振替高	394	—	—	394	15,124	15,519
計	3,351,001	222,135	36,957	3,610,093	114,902	3,724,996
セグメント利益 又は セグメント損失 (△)	685,246	△176,508	△159,061	349,676	△698	348,978

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	公式コンテンツ配信事業	オープンソーシャル事業	一般サイト事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,115,472	153,739	16,131	1,285,343	28,260	1,313,603
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	1,239	1,239
計	1,115,472	153,739	16,131	1,285,343	29,499	1,314,843
セグメント利益 又は セグメント損失 (△)	179,675	△23,963	△57,021	98,690	△7,344	91,345

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託事業及びライセンス事業等を含んでおります。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	349,676
「その他」の区分の損失（△）	△698
セグメント間取引消去	180
のれんの償却額	△7,823
全社費用（注）	△487,371
棚卸資産の調整額	539
四半期連結損益計算書の営業損失	△145,497

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	98,690
「その他」の区分の損失（△）	△7,344
セグメント間取引消去	60
のれんの償却額	△2,607
全社費用（注）	△161,738
四半期連結損益計算書の営業損失	△72,940

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。